

令和3年度

事業報告書

— 在宅医療・介護連携推進事業 —
— 在宅医療相談推進事業 —



一般社団法人徳島市医師会

徳島市在宅医療支援センター

地域のめざす理想像： 医療と介護を必要とする状態になっても、住み慣れた家で自分らしい生活を続けられるよう、
 (省略版) 医療・介護の関係機関が連携して、切れ目のない在宅医療、介護の提供体制の構築を目指す。

徳島市（介護保険の地域支援事業）

徳島市在宅医療・介護連携推進協議会

委託

開催

推進事業の方針等決定

在宅医療・介護連携推進事業【徳島市医師会】 ※徳島西医師会と連携

【場面】 日常の療養支援 急変時の対応 看取り 入退院支援

ア 現状分析・課題抽出・施策立案（計画）

（ア）地域の医療・介護の資源の把握

- ①徳島市内の医療・介護資源の整理
- ②地域資源情報一覧の運用

（イ）在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討

- ①多職種連携会議
- ②三師会在宅連携委員会の開催
- ③在宅医療に関する各種アンケートの実施

（ウ）切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築の推進

- ①徳島あんしんタッグの開催
- ②在宅療養支援診療所24時間ネットワークの運用と連携訪問看護ステーションとの連携
- ③24mini(カンファレンス)の開催及び運用(在宅療養支援診療所24時間ネットワークを小グループ化)
- ④在宅医療ネットワーク(TIZI-NET)の運用と後方支援病院ネットワーク(BBN)との連携
- ⑤在宅医療周辺サポートネットワークの運用
- ⑥ニコイチ会議の開催(地域包括支援センターと在宅医療支援センターの連携会議)
- ⑦在宅医療連携委員会の開催

【場面】 日常の療養支援 急変時の対応 看取り 入退院支援

イ 対応策の実施

（ア）在宅医療・介護連携に関する相談支援

- ①医療介護従事者からの相談窓口

（イ）地域住民への普及啓発

- ①在宅医療市民公開講座の開催
- ②webを活用した在宅療養支援診療所及び在宅医療整備への取り組み紹介
- ③刷新した「とくしま市の在宅医療と介護」パンフレットの配布
- ④YouTubeを活用した在宅医療に関する動画の配信

（ウ）医療・介護関係者の情報共有の支援、知識の習得等のための研修などの地域の実情に応じた医療・介護関係者の支援

- ①ケアマネタイムの運用及び情報更新
- ②多職種連携情報共有システム「バイタルリンク」の運用
- ③共通連携「トクシノート」の運用
- ④徳島県退院支援の手引きの普及及び徳島保健所と連携した入退院支援への取り組み
- ⑤キーパーソン3の開催
- ⑥三師会主催多職種のための在宅医療研修会の開催
- ⑦在宅医療よろず勉強会の開催
- ⑧各種研修会・講演会への参加、来館対応

ウ 対応策の評価の実施（徳島市主体）、改善の実施

在宅医療相談推進事業（徳島市から委託）

- ①地域住民からの在宅医療に関する相談窓口

【在宅医療・介護連携推進事業】

ア 現状分析・課題抽出・施策立案（計画）

（ア）地域の医療・介護の資源の把握

①徳島市内の医療・介護資源の整理

【取り組み内容】

令和3年度現在の徳島市内に現存する医療・介護資源を把握、整理するとともに、月毎の増減推移を調べ、今後の取り組みへ反映させる。

【成果や課題等】

今年度より、医療機関や介護施設・事業所計33種別の現存数について月毎に把握、整理した。種別毎の増減や今年度初めて開設されたサービス種別を把握できた一方、取り組みには十分活用できなかった。

参考資料①

②地域資源情報一覧の運用

【取り組み内容】

歯科や薬局、訪問介護等の医療・介護事業所の情報を一覧表にし、ホームページへの掲載や紙媒体による配布を通じて、医療・介護従事者及び地域住民等へ正確な情報を提供する。

【成果や課題等】

今年度は、適宜掲載内容を更新しながら、地域住民や専門職に対し、紙媒体の配布及びホームページ上への掲載として情報提供を継続した。ホームページ（徳島市地域資源情報一覧ページ）には1,045件のアクセスがあったが、紙媒体の配布はコロナ禍による来館者の減少に伴って配布数も減少した。

また、徳島市医療機関ガイドマップも冊子の配布及びホームページへの掲載を継続し、ホームページ（医療機関ガイドマップページ）には138件のアクセスがあった。

参考資料②

【地域資源情報一覧掲載件数】	
歯科医院	121件
薬局	138件
居宅介護支援事業所	103件
訪問看護ステーション	35件
訪問介護事業所	113件
通所介護	67件
地域密着型通所介護	28件
認知症対応型通所介護	9件
短期入所生活介護	28件
短期入所療養介護	19件
通所リハビリテーション	40件
小規模多機能型居宅介護	10件
看護小規模多機能型居宅介護	2件

【医療機関ガイドマップ掲載件数】	
診療所	229件
病院	46件



(イ) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討

①多職種連携会議の開催

【取り組み内容】

在宅医療に関わる多職種（医師・歯科医師・薬剤師・訪問看護師・ケアマネジャー等13職種）が一堂に会し、在宅医療を整備する上での課題とその解決策、地域へ還元した取り組みの評価等について協議する場として開催。



【成果や課題等】

令和3年度徳島市在宅医療・介護連携推進協議会にて専門職から多数議題提案された「多職種間の連携、情報共有方法」について、より深く議論した。コロナ禍という状況を鑑み、ICTを活用した情報共有方法が最適と考え、ICTの活用を妨げている要因等を議論し、解決策を検討した。本会議での意見を参考に次年度以降、ICT利用者の拡大に向けて、積極的に利用方法の研修会の開催等、取り組んでいくことになった。

参考資料③

②三師会在宅連携委員会の開催

【取り組み内容】

徳島市の医師会、歯科医師会、薬剤師会それぞれの在宅医療担当者が出席し、在宅医療整備への取り組みについて意見交換、情報共有を図る三師会の連携体制構築の場として開催。



【成果や課題等】

Zoomを活用したオンライン会議として開催し、コロナ禍における三師会それぞれの今年度の事業予定や現状・課題等について意見交換した。また、毎年開催している三師会主催多職種のための在宅医療研修会について協議し、今年度もZoomを活用したオンライン研修会として歯科医師を講師に開催することになった。

参考資料④

③在宅医療に関する各種アンケートの実施

【取り組み内容】

各専門職や実際に在宅医療と介護を受けている患者及び家族に対してアンケートを実施し、医療と介護に関する率直な意見を把握することで、今後の取り組みに反映させる。

【成果や課題等】

今年度は、医師・歯科医師・薬剤師・訪問看護師・ケアマネジャーを対象とした在宅医療に関するアンケートと在宅療養患者や家族を対象とした在宅医療受け手側アンケートを実施した。コロナ禍における在宅医療の現状や連携の課題等を把握することができた。

参考資料⑤

(ウ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進

①徳島あんしんタッグの開催

【取り組み内容】

徳島市オリジナルの地域包括ケアシステムの構築を目指し、徳島市医師会と行政がタッグを組んで在宅医療の整備に取り組むための意見交換の場として定期的に開催。



【成果や課題等】

今年度も新型コロナウイルスの影響から10月開催となった。行政側から関係部署の組織改正と人事異動の説明があった後、昨年度の在宅医療・介護連携推進事業等の報告を行った。協議事項では、介護保険制度改正に伴う在宅医療・介護連携推進事業の一部変更により、研修会の一部を不定期開催とすること、今年度は入退院支援の取り組みに重点を置くこと等を説明し了承を得た。今後も行政と徳島市医師会が連携して取り組むための協議の場として、必要に応じて適宜開催していく。

参考資料⑥

②在宅療養支援診療所24時間ネットワークの運用と 連携訪問看護ステーションとの連携

【取り組み内容】

在宅医療をシームレスに提供できる体制を継続するため、在宅医師同士が副主治医となるネットワークを運用し、医師の負担軽減を図るとともに、訪問看護ステーションとの連携により24時間対応可能な体制を整備する。また、円滑な運用推進を目的に連携会議を開催。

【成果や課題等】

在宅療養支援診療所24時間ネットワークは、登録医師の輪番による副主治医制として継続して運用した。依頼実績はないもののセーフティネットとして一定程度機能していると感じているが、閉院によって参加医師が徐々に減少している。一方、連携訪問看護ステーション数は少しずつ増加している。例年開催している登録医師と訪問看護ステーションとの連携会議は、コロナ禍に加えワクチン接種の影響から今年度は開催を見合わせた。

参考資料⑦

③24mini(カンファレンス)の運用

【取り組み内容】

在宅療養支援診療所24時間ネットワークの機能強化を目的に小グループ化（4名の医師が参加）でモデル運用し、メーリングリストや年2回のカンファレンスの開催を通じて情報共有を図る。

【成果や課題等】

今年度もコロナ禍によりカンファレンスの開催は見送ったが、週毎に交代する副主治医制は継続して実施した。メーリングリストを通じて随時情報交換を行う等、副主治医としての往診実績はなかったが、連携としては有用であった。次年度以降も引き続き24miniネットワーク体制を継続していく。

参考資料⑧

④在宅医療ネットワーク(TIZI-NET)の運用と 後方支援病院ネットワーク(BBN)との連携

【取り組み内容】

在宅医療を希望しつつも在宅主治医が見つからない方に在宅主治医を紹介する在宅医療ネットワーク(TIZI-NET)を運用。また、TIZI-NET登録医から在宅療養が困難となった患者の入院要請を円滑に行える後方支援病院ネットワーク(BBN)と連携を図り、より良い在宅医療体制の運用を目的として連携会議を開催。

【成果や課題等】

今年度のTIZI-NET利用実績は、患者家族からの依頼による1件であった。例年開催しているTIZI-NETとBBNの連携会議は、コロナ禍に加えワクチン接種の影響を鑑み、今年度の開催を見送った。次年度は状況を見ながらZoomを活用した連携会議の開催等を検討する。

参考資料⑨

⑤在宅医療周辺サポートネットワークの運用

【取り組み内容】

在宅医師等からの他科往診依頼に対応すべく、往診可能な専門医でネットワークを構築し、総合的に在宅医療が提供できる体制を構築する。

【成果や課題等】

今年度の利用実績は、耳鼻咽喉科2件、皮膚科3件であった。TIZI-NET登録医師への広報活動によって少しずつ依頼が増えており、ネットワークの認知度も高まってきていると感じている。次年度は、新たな診療科のネットワーク構築を検討し、さまざまな疾病に対応できる体制づくりを継続していく。

参考資料⑩

⑥ニコイチ会議の開催（地域包括支援センターと在宅医療支援センターの連携会議）

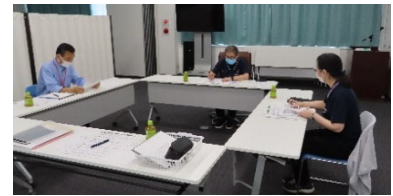
【取り組み内容】

徳島市地域包括支援センターと徳島市在宅医療支援センターが協働し、医療と介護を一体的に提供できる体制構築を目的に開催。

【成果や課題等】

それぞれの今年度事業の進捗状況や今後の予定について意見交換した。昨年度より市民向けの普及啓発をケーブルテレビやYouTubeを活用して行っているため、センターの広報活動も含め市民への普及啓発を協力しながら行っていくことを確認した。

参考資料⑪



⑦在宅医療連携委員会の開催

【取り組み内容】

在宅医療・介護連携推進事業等において、特に医師に関わる取り組みについて意見交換、情報共有を図るため開催。

【成果や課題等】

今年度もZoomを活用したオンライン会議として開催した。令和2年度在宅医療・介護連携推進事業等報告の後、制度改正に伴う推進事業の取り組み内容の変更について説明し意見を募った。その他、在宅療養中患者へコロナワクチン接種について意見交換した。

参考資料⑫



イ 対応策の実施

（ア）在宅医療・介護連携に関する相談支援

①医療介護従事者からの相談窓口

【取り組み内容】

地域の医療・介護関係者から、在宅医療・介護連携に関する相談等を受け付け、連携調整や情報提供を通じて、多職種間の円滑な連携を支援する。

【成果や課題等】

今年度は、診療所医師や訪問看護師等の専門職から延べ333件の相談を受けた。多職種連携ICTツール（バイタルリンク）に関することや医療機関の情報提供に関する相談が多く、昨年度より5件増加した。相談方法は圧倒的に電話が多かった。コロナ禍によって相談件数が減少して以降、低水準のまま推移しているため、広報等が必要であると考えている。

参考資料⑬

（イ）地域住民への普及啓発

①在宅医療市民公開講座の開催

【取り組み内容】

患者や家族・地域住民等が、在宅での療養が必要になったときに必要なサービスを適切に選択していただけるよう、在宅医療や介護への理解を深める機会を提供する。

【成果や課題等】

今年度は、『コロナ禍における在宅療養』をテーマとして、新型コロナウイルスに感染した際の支援内容やコロナ感染した家族と同居する在宅療養患者への支援内容等について、昨年同様、事前収録の上、ケーブルテレビ放送とYouTube配信を活用して市民へ普及啓発した。今回は、ナレーションとインタビューによる番組構成とし、テレビ放送とネット配信という特性をより活かした。また市民にとってよりわかりやすい番組となるよう工夫した。

参考資料⑭



②webを活用した在宅療養支援診療所及び在宅医療整備への取り組みの紹介

【取り組み内容】

年1回在宅療養支援診療所の医療機能・機関情報を更新し、「徳島市医師会在宅医療整備への取り組み」ホームページにて情報を公開。また、在宅医療・介護連携推進事業の取り組みをタイムリーにホームページへ掲載し、地域住民等への情報提供、普及啓発を図る。



【成果や課題等】

在宅療養に関する医療機関情報、在宅医療・介護連携推進事業の取り組み報告等を当センターホームページ上に掲載し、情報提供を行った。今年度のホームページのアクセス総数は21,668件と前年度より4,859件増加し、過去最高の伸びとなった。コロナ禍に伴ってインターネットを介した情報発信の役割は、益々大きくなっていると感じている。

参考資料⑬

③刷新した「とくしま市の在宅医療と介護」パンフレットの配布

【取り組み内容】

地域住民が在宅医療を選択する際や必要なサービスを適切に選択するための情報ツールの一つとして活用していただくことを目的に適宜配布する。



【成果や課題等】

昨年度刷新し、今年度から新たに配布を始めたが、コロナ禍ということもあって配布する機会が少なかった。ただ、ホームページでは538件のアクセスがあり、前年度より91件増加したことから、ホームページで閲覧する方が増えていると感じている。次年度は、コロナ感染状況にもよるが、コロナ禍であっても配布できるよう配布方法の検討が必要である。

参考資料⑭

④YouTubeを活用した在宅医療に関する動画の配信

【取り組み内容】

パソコンやタブレット、スマートフォンから気軽にいつでも在宅医療についての動画が視聴できるよう、YouTubeを活用し、専門職への情報提供や市民への普及啓発に繋げる。



【成果や課題等】

昨年度収録した第8回徳島市在宅医療市民公開講座や今年度開催した第8回三師会主催多職種のための在宅医療研修会等をYouTube配信した。市民に対しては、在宅医療を知っていただく機会として、また、専門職には、在宅医療に関する知識の習得の機会として、それぞれ効果的であったと感じている。次年度以降も新たな公開講座や研修会を継続して配信していく。

参考資料⑮

(ウ) 医療・介護関係者の情報共有の支援、知識の習得等のための

研修などの地域の実情に応じた医療・介護関係者の支援

①ケアマネタイムの運用及び情報更新

【取り組み内容】

ケアマネジャーと医療従事者との連携促進を目的に、診療所・病院・歯科診療所・薬局・訪問看護ステーションごとに相談可能な時間帯や方法を集約した上で、ホームページ上に掲載し、ケアマネジャー等へ提供する。

【成果や課題等】

今年度、掲載内容の全面更新を行い、掲載内容として新たにオンラインでの面談やサービス担当者会議への参加可否を追加した。コロナ禍という状況においても医療・介護連携を密に図るためのツールとして役立つと感じている。また、閉院等で掲載が減る一方、医療機関14件、歯科9件、薬局11件、訪問看護ステーション4件が新たに掲載された。

参考資料⑯

②多職種連携情報共有システム「バイタルリンク」の運用

【取り組み内容】

患者情報をタイムリーに共有するため、H28年度より徳島県医師会が導入した「バイタルリンク」を活用し、多職種連携における情報共有ツールの一つとして運用。

【成果や課題等】

今年度58名の患者に対し、延べ686名（実人数237名）の多職種と患者家族等がシステムを利用した。コロナ禍を鑑みても、バイタルリンクの利用は効果的であると考えられるが、利用患者は減少傾向にある。次年度以降、積極的に広報や研修会を開催し、利用増となるよう取り組みを強化する。



参考資料⑱

③共通連携「トクシノート」の運用

【取り組み内容】

平成27年度在宅医療整備ワーキンググループで作成した共通連携ノートをケアマネジャーや訪問看護師を通じて患者へ配布し、医療・介護関係者間で速やかな情報共有が行えるツールの一つとして運用。

【成果や課題等】

在宅医療支援センターや在宅介護支援センター、市役所の各窓口に設置、またセンターのホームページからダウンロードできるよう掲載し、多職種連携のツールとして利用していた。現状、積極的に利用する専門職と利用しない専門職の二極化が進んでいると感じており、利用する専門職が増えるよう、次年度以降広報等が必要と考えている。

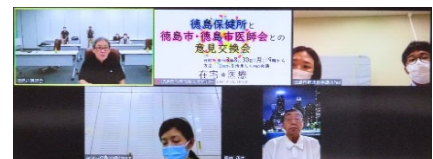


参考資料⑳

④徳島県退院支援の手引きの普及及び徳島保健所との連携

【取り組み内容】

徳島保健所が中心となって運用中の入退院支援の手引きを様々な場面で広報するとともに、徳島市においてより良い入退院支援の体制が構築できるよう徳島保健所と連携、協力する。



【成果や課題等】

今年度は、これまでの徳島保健所の取り組みや課題等について話し合う意見交換会を開催した。今後、徳島保健所が取り組む入退院支援に対し、アンケートを活用し課題を抽出した上で、課題解決に向けて協力して取り組んでいく。

参考資料㉑

⑤キーパーソン3の開催

【取り組み内容】

キーパーソン3（医師・訪問看護師・ケアマネジャー）の連携がより密となるよう、症例検討を通してお互いの距離感を掴み、患者を中心に一体となった在宅医療の提供ができることを目的に開催。



【成果や課題等】

今年度は「心不全の増悪により入退院を繰り返す高齢者への支援」をテーマに開催した。これまで職種ごとの参加者数に差があったが、Zoomを活用したオンライン方式に変更したことにより、グループディスカッション時のバランスを欠き進行に問題が生じたため、今回は参加者数を減らして開催した。しかし、案内方法に不備があったこともあり、参加申込数が少なくなった。次年度以降は参加者数のバランスを考慮しながら、開催・案内方法の再検討が必要と考えている。

参考資料㉒

⑥三師会主催多職種のための在宅医療研修会の開催

【取り組み内容】

三師会員（医師会・歯科医師会・薬剤師会）及び在宅医療に関わる専門職の在宅医療に対する資質の向上と標準化を目的に研修会を開催。



【成果や課題等】

今年度は、徳島市歯科医師会の推薦により、徳島大学大学院医歯薬学研究部歯周歯内治療学分野教授の湯本浩通先生に「高齢者の口腔機能管理－歯周病とオーラルフレイル予防の観点から－」と題しご講演いただき、Zoomによるオンライン講演会として開催した。専門職118名の参加があり、歯科領域に精通していない専門職にもわかりやすい内容で非常に好評であった。

[参考資料⑳](#)

⑦在宅医療よろず勉強会の開催

【取り組み内容】

医師をはじめ、在宅医療に関わる多職種が、在宅医療制度や診療・介護報酬についての知識を深く理解することにより、適正な在宅医療の提供や、在宅医療に参入する医師の増加を図ることを目的に開催。



【成果や課題等】

今年度は、コロナ禍における診療報酬に焦点をあて、特例算定等について、株式会社リンクアップラボの酒井麻由美氏にご説明いただいた。コロナ禍によって、新たに設けられた算定項目等を学び、整理する機会として有用であった。次年度以降も在宅医療に関連する事務的業務の勉強会として継続して開催する。

[参考資料㉑](#)

⑧各種研修会・講演会への参加、来館対応

【取り組み内容】

在宅医療に関連する研修会・講演会に参加し、知識の習得や取り組みへのヒントを得る。また、来館対応を通じて、関係者と意見交換・情報共有を図り、今後の取り組みへの参考とする。

【成果や課題等】

今年度は、他県のバイタルリンクの活用状況を知る研修会を中心にWEB研修会・講演会に参加した。また、医学生や在宅医療への参入を検討する医師が来館され、意見交換、情報共有を図った。

[参考資料㉒](#)

【在宅医療相談推進事業】

①地域住民からの在宅医療に関する相談窓口

【取り組み内容】

在宅医療に関する市民向け相談窓口を設置し、在宅医療の利用方法等に関する相談から医療機関や地域資源の情報提供、また、必要に応じて適切な機関へ繋ぐ等のワンストップ窓口機能として関係機関と密に連携を図りながら対応する。



【成果や課題等】

今年度は、地域住民等から149件の相談があり、昨年度と比較して49件減少した。コロナ禍における在宅医療の相談から、コロナ感染者への対応や転院に関する相談等、コロナ禍特有の相談も複数寄せられた。

引き続き、在宅医療について気軽に相談していただけるよう広報活動を継続しつつ、様々な相談に対し適切に対応できるよう職員のスキルアップも図っていく。

[参考資料㉓](#)